

三宮センター街協同組合の記録



・設立年月 昭和二十九年十月一日
 ・組合住所 神戸市生田区三宮町一丁目

一六四

・設立の目的 組合員の相互扶助の精神に基き、組合員のために必要な共同事業を行い、以て組合員の自主的な経済活動を促進し、且つその経済的地位の向上を図ることを目的とする。

・組合員の資格 三宮センター街に店舗を有し、三宮センター街商店会の会員であること。

・創立総会と役員 組合を設立するに当り、福井猛郎、田淵富久蔵、井野富次郎、渡辺徳治郎、西岡精一郎、大西儀蔵、原田幹夫、田和繁之助、山下良造、東條喜三郎、大内保市、松原治郎、行政猛男、北村嘉雄、田路茂夫、池田享、西尾悟、元田蓮の十八名が発起人となり、九月二十日パウルスタで創立総会を開催、設立同意者七十名中六十二名が出席して



第二代理事長
渡辺徳治郎氏



初代理事長
東條喜三郎氏

渡辺徳治郎氏を議長に選び議事進行、総会が成立した。これより以前、七月二十六日に東條氏他十七名が設立発起人となり目論見書を

作成して設立準備会を招集し、回を重ねて創立総会に及んだ。

この時認承された取引銀行は富士銀行三宮支店と神戸信用金庫本店の一行一金庫。借入金最高限度は二千万円也。

役員選挙は記名投票により東條氏四一票、渡辺氏四〇票、大内氏四〇票、長沢氏三八票、上田氏三七票、大西氏三五票、田和氏三五票、坂本氏三五票、福井氏三四票、井野氏三四票、元田氏三二票、松原氏三〇票、田路氏三〇票、山下氏二八票、北村氏二八票、池田氏二七票、原田氏二六票、田淵氏二五票、行政氏二五票の十九氏が理事に当選、初代理事長に東條氏が就任、監事は二名、西岡氏三二票、西尾氏二九票で選ばれた。(任期は理事二年、監事一年)

・出資金 一口五万円七十口、初年度収入予算は百八十万円(手数料百五十万円、これは売上三千万円に対する五%、組合費三十万円)・初年度の事業 当年は後半期を残すだけのことから

①普通チケット(一冊二千五百円) 高額券(一冊二万円) お買上チケット(一冊五万円) の三種を発行、共同月賦販売制度の確立をめざした。②転貸融資、③損害保険業務その他。現金を持ち歩かなくてもクーポンによる信用販売で顧客をキャッチしようというところは現在大幅に行なわれているキャッシュレス時代をまさに先取りした事業ということが



出来よう。

▼昭和三十四年四月一日、事務所を三宮町一丁目三十一番地へ移転。

この年出資口数七十九口。

長らく低迷が続いていた日本の鍋底景気もこの頃から漸く燭光が見えはじめ、市民の生活にも少しは余裕が出来、チケット販売も年々業績を伸ばしていく。

▼昭和三十五年十月六日には、三宮センター街協同組合に対し、阪本勝兵庫県知事、県中小企業団体中央会会長納嘉正治氏の連盟で表彰状が贈られた。永年に亘る組合員の指導と産業発展の功を讃えたもので中小企業法制化五周年記念表彰であった。

▼昭和三十六年四月一日東條氏勇退、二代目理事長に渡辺徳治郎氏就任。中小企業等協同組合法の一部改正に応じて定款を一部変更、理事の任期二年を三年に監事一年を二年にし、また会員資格は従来センター街会員に限られていたが、トアロード、生田筋、京町、滝道筋、また三宮本通商店街に店舗を有し、かつ所属商店街の会員であった物品の小売業またはサービス業を営む者で、高梁南側国道以南の地域まで広げた。

三宮センター街協同組合



第三代理事長
大内保市氏

▼昭和三十一年八月二十日
三宮町一丁目
四二、三宮自治会館へ移転

▼昭和三十八年五月十三日、布引の観光ホテルで第九回定時総会の席上、渡辺理事長は、「不況といわれた三十七年度に於ても、センター街協同組合は順調な業績を示し、各単組を抜いて第一位の伸率を示したことは、各店諸氏の努力の結果であり、更に業績を伸ばす努力を」と挨拶されたが、三十七年十二月の神戸クーポン売上ベストテンは左記の通りセンター街の店舗が独占している。

星電社、ほんぐり靴店、アンコール・ショップ、上田洋服店、ベニヤ洋装店、喜久屋化粧品店、セリザワ服飾店、マルナカ洋服店、モトヤ靴店、小松屋洋装店。

▼昭和三十九年には設立十周年を迎えたが、三月二十日渡辺理事長が突然死去され、後任理事長に大内保市氏が四月一日就任。クーポン券も職域クーポン、家庭クーポン、パーソナルクーポンと多様になり、センター街の加盟店は百二十軒となった。九月八、九日には加盟店座談会を神戸信用金庫で、同十八日にはクーポン利用者、加盟店、組合役員の三者会談をニューミュンヘンで開くなど、オリソピックと呼応して業績の向上をはかった。

▼昭和四十一年五月十七日、第十二回総会を三ッ輪で開催、この年も神戸クーポン売上げ一位の記録を保持。

▼昭和四十三年五月二十一日、第十四回の総会では、この四月から発足した各銀行のクレジットカード（O・C・B、ダイナース、ダイヤモンド、住友クレジット、第一チェック）

等の説明が行われ「買物に便利でスマートなクーポン」を強調し、売上増進標語を店主店員対象に募集、六月二十日夕切で富田充彦氏の「クーポンで今日もたのしいお買物」が一位当選（賞金三千円）

▼昭和四十六年一月、神戸市内の七商店街協同組合で組織している株式会社神戸クーポン（社長松岡広次社長、加盟店約千二百、会員五万人、年商約十億円）が、十五年間に亘る割賦信用販売業務を日本信販株式会社（社長山田光威氏、資本金十四億五千万円）に、前年十一月三十日全面的に経営を移譲したことから、一月から近畿日本信販のクレジットカードへ移行、四月一日からサインだけで買物OK時代へはいる。

▼昭和四十七年三月三十一日、協同組合は解散申請書提出、臨時総会を市民生協三階で開き、解散を決議。

神戸クーポン売上げトップの記録を保持した三宮センター街協同組合の事業も十八年間で終りを告げた。（代表清算人大内保市氏）

尚清算金の残高を定期預金として四国銀行に保管していたが今回センター街創立三十周年記念式典が催されるに当り、元利合計十九万七千五百七十一円也を記念式典に寄贈した。



▲第12回定期総会は三ッ輪で（S41.5.17）

▼春の親睦旅行は和歌山県白浜御苑で（S36.3.13）

